



特別
子2
4212
18





銀

室町殿日記云兵庫津ノ賣買米壹石六匁三分五厘
木綿一疋壹匁五分

銀

慶長四年古田織部請取書云米拾石代百目
壹石二匁拾分

錢

百練抄云寬喜二年六月廿四日以錢一貫文米壹
石ノ由被下宣旨

格三三年飢饉

○多門院日記

天正十五年十二月 金一枚 四百三十目

金一枚 六十六石

○大仙院納下帳 天正三年三月 金一枚 二十六石

月 務 首

慶長大判金

金伍五十二

純金三七七九三三三

金伍六十二

純金三十一九三三三

新貨

金十四 金九初一

重四四三三三三三

貿易銀 銀九初一

重七七一七七元

新貨

一錢 重一五八八九七七元

重一五八八九七七元

重三三三三三九九元

重三三三三三九九元

江詔抄ニ云フ備後守致忠元方置閑院為家子則以金一兩買石一三
正二十年豐臣秀次ノ次郎ノ朱印ニモ一五道ノ精錢トアリ奉使小銀
鉛錢
九曆日天徳□年三月廿八日可新錢鑄造教並鉛錢宣可申者而依
公仰不參不能定奏

此大判包紙ニ天正噓訛判トアリ永祿年日本ノ節甲集ニ噓訛賄賂送財也ト有リ

京目一兩判
甲川古金判四兩判

天正四

水戸薬王院天正文書。黄金三兩。田舎目金一枚。京目金五兩。京目。

天正六年三月由木左衛門景盛ノ文書ニ黄金二兩。京目。

觀應年間ノ文書京都若江家藏。京江進上ノ砂金八目一兩。四匁五分。

田舎江下ニ賜フ砂金八目一兩。四匁七分。

天正三年大仙院金銀納下帳ニ金一枚。四匁四分。目金一兩。四匁四分。

豊臣氏

大判金。四十匁。ヨリ四十匁五七分。至ル徳川氏モ又大判金ハ

萬延元年所鑄ノ新大判金重シテ減シテ三十匁トナリ

文祿五年淺野長継ノ文書ニ金壹兩者京目五十枚。目金四兩。或ハ壹兩

為中日云々

萬延元年ノ鑄造ニ至テ重ク減シテ三十匁トナリ

金

五兩判 重三十三匁

無名大判 重四十五匁

無名大判 重四十四匁七分

菱大判 重四十四匁四分

同 鳴詔判 重四十四匁三分

澤瀉大判 重四十四匁

二上判 重三十六匁九分

金字大判 重四十三匁

天正古判 重四十四匁二分

同上 後兼是柳

同上 日

大佛古判 重五十五匁

内務省

右仙利

重四十四分

任五十

徳業花押

利

多向流石他三十五十之十九月大仙堂殿工持八金子百枚一七二後藤利了り云
天正十三年金賦 金五千枚限三万枚 限三万兩
天正十七年金賦 金限三万五千兩

○足利家銀金

○無名銀金 重四十五分 長三寸八分 横三寸五分
榎打 榎印ナシ

○無名五両銀金 重三十二分五厘
榎目ナシ 榎印ナシ

○織田家銀金

○無名銀金 重四十四分七分

○豊臣家判金

柏木藏 ○菱大判 重四十四分四分
墨書天正十六 花押

○菱大判 重四十四分四分
墨書天正十九 花押 同上

○天正大判 重四十四分五分 裏無地
墨書天正十九 花押 同上

○天正大判 重四十四分三分
花押

○天正大判 重四十四分三分
徳業花押

○天正大判 重四十四分三分
同上

○天正大判 重四十四分三分
同上

○天正大判 重四十四分三分
同上

○天正大判 重四十四分三分
同上

○天正大判 重四十四分三分
同上

全銀錢簿
○天正大判 重四十四分三分
大仙利ト云フ 徳業花押

元寶祐

寛永九年徳川秀忠公薨去所遺物金銀総計

黄金六万五千五百枚 慶長小判ニシテ 四十九万二千五百五十兩
但一一枚七兩二分ノ積リ

銀四十万七千七百枚 慶長銀ニテ一萬七千九百六十壹貫百目一枚ニ
四十三枚此銀小判金ニシテ二万七千二百十三兩
三歩銀二万五千但一兩ニ銀六十六分ノ積リ也

金合五十二万六千四百六十三兩三歩ト銀二万五千

明倫土產相場

鐵	一貫	五匁	此後十二年十一月十日相場	金	一	一万千五百倍
鉛	日	四十匁	八倍 極上五匁	銀	六倍	千九百廿倍
錫	日	一匁	十倍 二百五十五匁	生銅	三百五十倍	二十三倍
銅	日	一匁六十匁	三十倍 一百七十五匁	錫	二百三十倍	二十五倍
白金	銀ノ六倍			鉛	千〇六十倍	十倍
白銀	銀ノ十倍			熱鐵	千四百廿倍	十三倍半
生銅	三十倍	鉛ノ三倍		生鐵	九千六百倍	十倍
錫	五十倍	鉛ノ五倍		生鐵	一万五千五百倍	一
鉛	五十倍	生鐵ノ十倍				
生鐵	〇一位					

大學生ノ銀ノ六倍 銀ノ銅ノ六十倍 銅ノ鉛ノ三倍 錫ノ鉛ノ五倍 鉛ノ生鐵ノ十倍 及ヒ熱鐵ノ生鐵ノ十倍 當レ

室町殿日記

中間流の木綿三十五疋買取其後每疋三匁登セ申付可有此情取
 此二つよむめんハ今和と一疋、白き多ふから七分の賣買ニ付此れを
 二つよむめんおとぬめんを、さくらき毎三分づつを、
 申付向其心得一匁有ぬ以上

十一月廿九日

加持寺五倍

岡村忠左衛門殿

法つ不存方け、と瓦の切米十二石賣とも、可申よ
 被作越此この頃兵庫の賣買一石二百六匁三分の、すい田
 や新より申付其心得可有ぬ以上

十一月二日

加持寺五倍

岡村忠左衛門殿

越後國切銀里言 鈍切銀云フ元禄祿九年秋越後國語切銀通用停止セラレ
切銀東鑑出又文在(有)

切銀事

右近年多出未之由有其向於自今以後者用切銀事可待止之存
此旨普可令下知之依仰執達如件

弘長三年九月十日

武藏守
相模守

加賀前司致

伯耆國 南紀 元中 以山名氏範所領 ○永正六年西宮三川分争之際出雲守護尼子
經久漸ク盛ニシテ近國ヲ併吞ス此以伯耆國 尼子ノ所領トシテ永禄九年尼子
義久毛利ノ名ニ降参ス同十一年尼子伯臣山中幸盛尼子勝久ヲ主將トシテ
中宮ニ起ル 天正元年吉川元春因情伯耆ヲ攻ム
志実ニ元正ノ以京ヨリ西宮一兩ニ鑑五十貫ホトニ寄ルトシテ

元中 山名
永正 六 尼子
永禄 九 毛利

伯耆國元中、頃山名氏範所領不永正中出雲守護尼子經久漸ク盛ニシテ近國ヲ併吞ス此際、
伯耆國王昭尼子ノ所領トナル其後永禄九年尼子義久毛利ニ降参ス同十一年尼子伯臣山中
幸盛尼子勝久ヲ主將トシテ出雲ニ起ル 天正元年吉川元春因情伯耆ヲ攻ム

大納言

多門院日記略天正十九年正月大納言秀長卿昨廿一日死去云々米
錢金銀充滿云々廿七日金銀錢相糺ノ家金子ハ五万六千枚余
云々銀子ハ二間四方ノ部屋ニ棟竈ニテ積テアリ 数ハ不知料
是ノ分□何万貫アルモ積リハ不糺ト申渡云々

大納言

同上文祿二年八月廿二日昨日款ナコヤヨリ聖慶帰云々大納言
帰必定也云々先ハ山西助世ト云者奉行ニテ金子一万枚銀子
三万枚金銀ノ鳥目色々ノ財ヲ大坂へ被帰了云々

大納言

同上天正十七年五月廿四日去廿日款於聚樂後関白殿諸大
名前ハ金銀被遣了金子千枚銀千枚上ニテ次第ニ悉被遣了
惣テ金銀ノ教事々難儀也中々不及交量事也云々

大納言

同上天正十六年九月朔日云々大納言殿ハ家康ヨリ樽ハ金子
百枚 一々ニ後藤
判アリ

大納言

大納言云天正十三年初秋頃金子五千枚銀子三万枚諸候大夫

等ニ施シテヘリ云

土佐軍記云天正十三年十月元親浦戸ヨリ出船大坂へ出仕ノ
支度セラル云々秀吉卿御覽ニテ云々其方ハスリヤリト聞召
黄金被下ト仰ケレバ藤堂黄金百枚甚ニ居持未前ニ置云々元親
父子同道ニテ下向アリ其明ル日家老并諸侍ヲ召テ座中ノ次
第ヲ語給テ一番ニ御腰物ヲ見セ玉ヘバ是金作ナラント皆人戴ニ
番ニ黄金百枚見セ給ヘバ是ハ判金ト云モノカトコソリ懸リ見物
シテ戴物ヲ見タル事ナレバ珍敷云々

安齊隨筆卷之拾卷

判金續武家閑談卷十三云推現禄未ト御小身の時上方より後茂徳衆ト被仰作
ハ誰ノ一人賜物ハ不成とも云金物仕仕者閑東へ下り俵やうと被成度ノト
仰作トモ誰モ後藤家より不泰トモ後藤庄三郎不罷下ト申テ希ら
御意入御鷹野御供仕俵上意ト云下を御取俵ト其方何ぞ望メト
被仰庄三郎然ラハ判金の黄金を四ツ切テはくせ俵やうと致度と望
ニ申俵天下御取後如此成り一其頃まづ大判バクウト當時の小
粒ハ庄三郎より始り元ハ無之ハ判金漸秀吉の頃より出来其前ハ
灰吹銀を秤カケテ遣也云々

貞丈云秀吉以前は京都將軍時代ハ唯錢バクウ通用して金銀の通
用ハナク一あり通物ハ沙金銀兩也或ハ黄金銀兩をどして送
り一ハ此黄金ハ大判ハ判金あり板金竿金を切テ秤カケテ
銀兩ト云銀も板銀竿銀あり板の金銀を鑄ぐへ入テ燒ぐ面

手の水を付てゆりかく水は花の散りてゆりかく如くなる痕付る
是を花より銀と云ふ

天明元 同書貞丈云細工金は約り金位八十八分廿五近に在る

中略 金の位廿五より上の金ハ先て當時に在りし事ニ在る

同書云天竺より蘭洋檀金と申候金ハ銅交り作金より位悪劣は在る未だ

金銅と唱申

右金銀は候事留仰事不知ありりし事ハ尋常の荒増を考書し

天明元 仲慶子謹誌

直方船紀曰噤川記云板金のろりの事五板十板百板といへば折又ハ唐の
多量と云ふ是りて披露り又只一板二板も田前より山前をどき包
をあけの事なるとあるは但時宜より古変事と有と云

但甲八重七錢七分五厘ニシテ銀三兩トアリ乙ハ重八錢一分ニシテ銀三兩トアリ又銀銀ハ甲乙
并ニ重五錢九分強弱ニシテ其銀ニ各一兩一分トアリ而テ甲ノ銀金ノ重七錢七分五厘ニテ一兩
三分トスレバ其一兩ハ今秤ノ四錢四分三厘ニシテ乙ノ銀金ノ重八錢一分トスレバ其一兩ハ
今秤ノ四錢四分五厘強弱ニ當ル又銀銀ノ重五錢九分強弱ニシテ一兩一分トスレバ其一兩ハ四錢七分
強弱ニ當ル也輕重均カラス

鈴 〇と云ふは〇の字に似たり。〇の字は鐘の字に似たり。今誤りたり。また
大寸と云ふは〇の字に似たり。〇の字は鐘の字に似たり。今誤りたり。また
と云ふは〇の字に似たり。〇の字は鐘の字に似たり。今誤りたり。また

明治九年三月廿五日大和國流上郡はる寺村蕪は草寺廢地 同山麓柳 林地開拓
全盛跡ヲ見テ 銀金ニ枚銀銀ニ枚及 和同開珎若千ト云 直方船紀云
神切開多跡多中同元直方船ノ船片三枚又水晶、念持四十三枚ヲ掘出セリ

一枚ハ銀三兩トアリテ其重八錢一分 一枚ハ銀三兩トアリテ
其重七錢七分五厘又銀銀ハ各一兩一分トアリテ其重一兩五錢九分強
一枚ハ銀三兩トアリテ其重八錢一分

遺老物語三信長公ノ御代後四市兵衛ノ先祖コレヲ極ル由見エタリ

三化ノ國三景十並或説ニ室所家判金ニ徳来墨印レテ通用セシトイヘリ

室債事略曰王正十六年造黄金大判小判云々

遺老物語ニ云緒二年初テ金銀改メ仰付ラル、由見エ

三化或家蔵ニ天正年ノ大判有リ包ニ紙ニ王正十九年五月秀俊ヨリ来ルト有テ金銀改メ仰付ラル、由見エ

草廬雜談曰寛明日記曰寛永九年黄金一両ニ白銀六十匁替云々

外
卷
目



